廣讃寺ジャーナル

第34号
（発行所）

真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

十二月二日の朝、とんでもない時間に起床した。再び就床するのもおかしなものだからそのまま机に向かって何かを記そうと思った。

幼少のころの友人が浮かんだ。河井君、猪飼君、杉野君、寺西君等思い出多い皆さんは全員戦死だ。死に場所のしっかりした人もあれば、どこかも知れぬ人もいる。身の回りの五人をあげただけでこの通りだ。彼らはそれぞれ夢を持って二十歳までは生きてきたのだと思う。突然の戦争の世界の四方に散って死んでいった。

戦争が悪いことは今なら誰でも知っているが、あんなころは軍人になるのが男子の使命と教育をうけた。国を挙げての軍国主義であった。こうした日本を誰が計画し造ったかは皆目いわれていない。知らぬうちに出来たのだろうか。

あの東京戦犯裁判の時、誰一人として一切の責任は我にありと称したか。日本の「戦国主義をつくったのは私である」と一人としていいきっていない。うやむやにはじまり、うやむやに終わり幾多の若人の命が失われた。彼らには彼らの夢があったであろう。

今なお論ぜられる南京大虐殺の経緯はどうなっているのか。南京の東門を入場した松井石根が「我一人の命令による」としたならば、あのようなB・C級戦犯はなくなっているはず。

このことはビルマ、マレーシア、フィリピン等占領地に皆いえることだ。責任をとることの、やぶさかであってはならない。国民の不幸である。

阿弥陀経にでてくる
高弟子第六　離婆多

和美

高弟子六番目はリヴァタで、離婆多と申します。

この人は一番目の舎利弗の末弟であるといわれる。仏伝の中に、この人の記載はあまりない。活躍が少なかったと思われるが、しかし非常に純粋なさとり方をなさるので、無倒乱第一と弟子の皆さまから尊敬されていました。

お釈迦様が涅槃された後、牛泥棒とか監獄入りの話がささやかれるが省略します。

ここでは第一回に記載した舎利弗および離婆多家の家系を記載します。

ナーラカ村支配者
マータラ　祖父
　├ サーリ　母 ── ティサ　父
　│　├ リヴァタ　離婆多　⑥
　│　└ サーリプッタ　舎利弗　①
　└ クチラ　叔父
　　摩訶倶絺羅　⑤

丸印は釈迦の弟子番号

真宗本廟（東本願寺）報恩講
親鸞聖人七五〇回ご遠忌法要に参加して

二十組　二〇一〇年十一月二十四日

廣讃寺、了通寺、共一台三十六名（バス二台）。

参詣に対し今日のお経の読み方（伊藤和美さん）よりコピー用紙全員に配る。了通寺住職より練習する。バスの中は読経の声が流れた。

本山に着く。

御影堂門を入り階段を上り、御影堂の中へと。

お坊様数十名の読経が堂の中にひびき渡る。

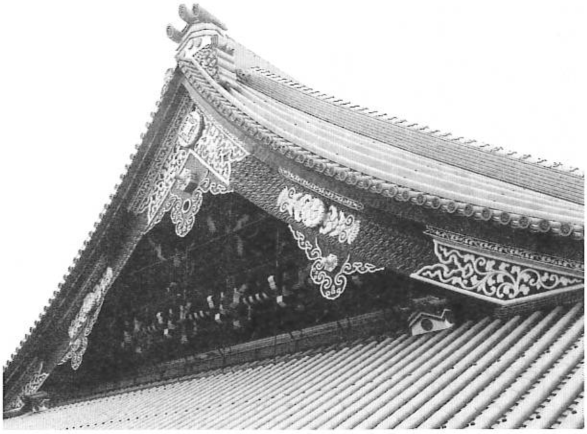
終わって外に出て御影堂の修復された瓦を見る。（屋根）を近

くで見る。青空と白い雲が流れて日本瓦の色あいは何ともいえない。街路高木（いちょう）のチラホラと落ちる中を帰る。

東山連山をへて次は大谷大学博物館案内と説明を聞く。バス号車ごとに記念写真をとる。

最後は土産物店で少々名物をかった。バスに戻る。外はもう暗かった。

JA稲葉地支店で下車。皆々様とお世話になったお礼をし、解散する。



大谷大学博物館のお宝

村上三智雄

晩秋、二十組の本山お待受け法要に参加した。午後まだ授業中ではあったが、大谷大学の博物館の宗祖の特別展をみる機会に恵まれた。

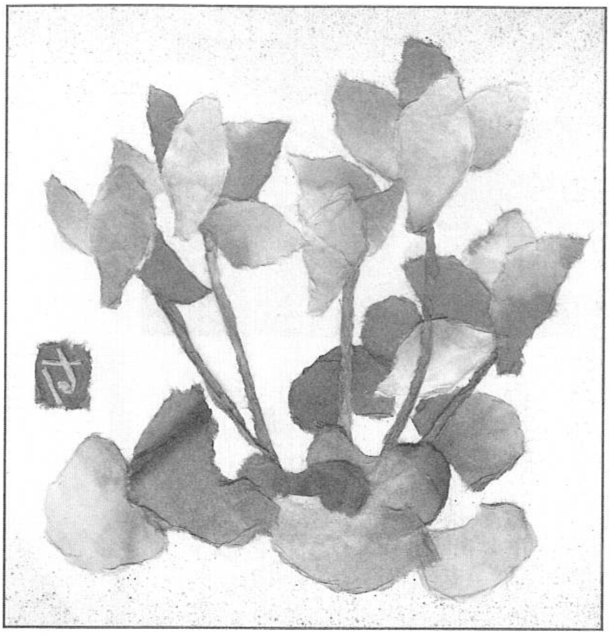
宗祖に関する資料がいっぱい収蔵されていることが分かった。宗祖の父、日野有範像はじめ日野家の系図、本願寺聖人伝絵は十四世紀南北朝時代のものである。往生要集の中の下巻には、鎌倉時代のものなど古い物が多いのには驚いた。特に限られた人しか写させなかったという法然上人の「選択本願念仏集」は聖人が許され写筆された物かと思う。時計を気にしながら、六字名号や教行信証・正信偈文・文類偈。歎異抄・口伝鈔などに注目したかったが、時間がせまり残念であった。

八百年前の文章をいただいた信者たちが宝物として敬いの対象として信心して、ひそかに保存してきた真宗の信心のあり方を深く思えてきた。

【20組行事案内】

ご命日の集い

・一月二十二日(土)　四時～
講話と新年懇親会
〈場所〉なごや花亭　美よし
〈会費〉四千円（当日受付へお納め下さい）
※参加御希望の方は寺まで連絡下さい。



行事予定

一月一日(祝)十時　修正会
八　日(土)七時半　同朋委員会・例会
(役員は七時)
十九日(水)二時　学習会
二十八日(金)十時　二十八日講・女人講

二月十二日(土)七時半　同朋委員会・例会
(役員は七時)
十九日(土)二時～四時　学習会
二十八日(金)十時　二十八日講・女人講